

## 夕張の炭鉄港ストーリー

1874 (明治7)年、アメリカ人鉱山地質学者ベンジャミン・スミス・ライマンの調査隊が夕張川を遡り石炭の存在を確信、その後1888 (明治21)年、道庁の技師坂市太郎が志幌加別川の上流で石炭の大露頭を発見したことから「炭鉱の街夕張」の歴史が始まりました。1890 (明治23)年に北海道炭礦鉄道会社 (北炭) が夕張炭鉱を開鉱して以来夕張は炭鉱の街として栄え、北炭、三菱を中心に関連産業も発達していきました。

1960 (昭和35)年には116,908人の人口を抱える都市となりましたが、昭和40年代になるとエネルギーの需要が石炭から石油へ移行したことにより徐々に炭鉱は閉山していきました。1990 (平成2)年に三菱石炭鉱業南大夕張炭鉱が閉山し「炭鉱の街夕張」としての歴史に幕を閉じ、その後夕張は「炭鉱から観光へ」と舵を切りました。



かつての炭鉱跡地を利用したテーマパーク「石炭の歴史村」が建設され、1980 (昭和55)年には石炭博物館がオープンするなど、遺された炭鉱遺産は様々な形で活用されてきました。2007 (平成19)年に夕張市は財政再建団体となりますが、石炭博物館が2018 (平成30)年に全面改修を終え、マチや人々の営み、石炭産業について学ぶことができる中核施設としてリニューアルオープンするなど、炭鉱遺産は交流人口の創出や郷土愛を育む地域資源として活用され続けています。



YUBARI 夕張 歴史をめぐる旅物語

# 炭鉄港

## 日本遺産とは



JAPAN HERITAGE

日本遺産

「日本遺産 (Japan Heritage)」は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを

「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

【本邦国策を北海道に観よ!~北の産業革命「炭鉄港」~】は令和元年度日本遺産に認定されました。

日本遺産ポータルサイト <https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/>

## 歴史と自然と共に歩む再生のまち

夕張市は北海道のほぼ中央、空知地方の南部に位置し、東西24.9キロメートル、南北34.7キロメートル、面積763.07平方キロメートルの街です。夕張市一帯は夕張山地の豊かな森林や清流に育まれた丘陵で、夕張岳 (1,668メートル) から流れる夕張川とその支流が市内のほぼ中央を貫き、流域に沿って帯状に街が形成されています。

2007 (平成19)年に財政再建団体となりますが、北海道屈指のスキー場マウントレースイ、ゆうばり国際ファンタスティック映画祭をはじめとする多彩なイベント、全国的にその名を知られる銘産夕張メロンを原料とした特産品開発、雄大な自然環境の利用など、財政再建と地域の再生を進めながら「歴史文化」と「自然環境」を大切にコンパクトシティの形成を進めています。

### 【札幌から】

車：約1時間30分 (道央自動車道経由)  
バス：約2時間 (直行高速バス)

### 【新千歳空港から】

車：約1時間 (道東自動車道経由)  
バス：約3時間10分 (札幌経由)

### 【旭川空港から】

車：約2時間30分 (道央自動車道経由)  
バス：約4時間30分 (札幌経由※JR併用)

札幌

新千歳空港

旭川空港

夕張市

制作：炭鉄港推進協議会 (事務局：空知総合振興局地域創生部地域政策課)

〒068-8558 北海道岩見沢市8条西5丁目  
電話番号：0126-20-0146 FAX 番号：0126-25-8144



炭鉄港ポータルサイト  
<https://3city.net/>

歴史をめぐる旅物語

# 炭鉄港

## 夕張

令和6年3月発行

パンフレット背景色は12市それぞれの炭鉄港イメージカラーです 【夕張：メロン】

## 北海道の近代化を支えた 三都を結ぶ物語

北海道の近代化は、1872 (明治5)年、石造埠頭の建設が開始された小樽からスタートしました。その後、小樽が北海道のゲートウェイとして一段の飛躍を遂げる契機となったのは、1879 (明治12)年、北海道初の近代炭鉱である官営幌内炭鉱 (現在の三笠市幌内) の開鉱でした。

その石炭を運ぶための幌内鉄道は、北海道初の鉄道として、まずは1880 (明治13)年に手宮 (小樽)~札幌間が部分開通、1882 (明治15)年には幌内まで全通しました。幌内鉄道は、小樽港への石炭運搬だけでなく、北海道内陸部へ入植する人や収穫した農産物の輸送に活躍するとともに、人や物資の輸送円滑化を通じて道都札幌の発展も支えました。

1889 (明治22)年、炭鉱と鉄道は元薩摩藩士の堀基が設立した北海道炭礦鉄道会社 (北炭) に払い下げられ、同社によって空知炭鉱 (歌志内) と夕張炭鉱 (夕張) の開発が進められました。それに伴い、1892 (明治25)年に室蘭まで鉄道が延長され、岩見沢が道央圏を東西南北に結ぶ鉄道の交点として、室蘭が石炭積出港として発展する礎となりました。

1906 (明治39)年には、鉄道が国有化されました。北炭は、その売却資金をもとに、英国企業2社との合併により、室蘭に日本製鋼所を設立。1909 (明治42)年には製鉄へと進出し (輪西製鉄場:現在の日本製鉄室蘭製鉄所)、室蘭は鉄の街として不動の地位を確立しました。

一方、鉄道国有化によって北炭の独占輸送体制が崩れ、財閥各社は一斉に空知へ進出し、これを足がかりにして日露戦争で獲得した樺太へと勢力を伸ばしました。このことが小樽港の一層の発展を促して、1914 (大正3)年の小樽運河の開削へとつながっていきます。

空知・小樽・室蘭の三都を結ぶ鉄道は、全道の鉄道ネットワークの機軸となり、三都の基幹産業である石炭・港湾・鉄鋼は、北海道の産業化を先導してきたのです。

# 空から炭鉄港

～夕張市～  
YUBARI CITY



旧北炭清水沢水力発電所

清水沢ダム

炭鉄港  
女子の

大倉加奈さん  
炭鉱が好きすぎて北海道赤平市に移住。  
フリーデザイナーとして活動中。

ココ見て！  
炭鉄港

## 夕張市石炭博物館

かつてあったテーマパーク「石炭の歴史村」の整備に合わせて1980年(昭和55年)に「石炭」と「炭鉱」、そして産炭地で育まれてきた「生活文化」について普及・啓蒙する場として開館した博物館で、一時休館していましたが2018年(平成30年)にリニューアルオープンしました。マチや人々の営み、石炭産業について学ぶことができる博物館で、資料展示の他に実際に使われていた大型機械などの展示で炭鉱の臨場感を味わうことができます。

【開館時間】

4～9月/午前10時から午後5時(入場は午後4時30分まで)  
10～11月/午前10時から午後4時(入場は午後3時30分まで)

【休館日】 火曜日 ※連休中は営業の場合があります。  
また冬季休館があります。詳しくは石炭博物館へ。

【入館料】 大人800円、団体700円(20名様以上)、  
子ども400円

## 炭鉄港 めし

### ～夕張カレーそば～

夕張には過酷な労働に従事する炭鉱マンたちに愛されてきた「藤の家」というお蕎麦屋さんがありました。人気メニューは豚肉を使ったカレーそば。2009年「藤の家」閉店後、このソウルフードを守りたいと市内の飲食店が結束して「夕張カレーそば協議会」が結成されました。各店舗とも元祖の味を継承しつつも、独自の工夫を重ね、それぞれ違った味わいがあります。



・この地図は空間情報データベース GISMAP を使用して作成した。  
・この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。  
(承認番号 令元情使第415-GISMAP42767号)

幸福の黄色いハンカチ  
思い出ひろば

マウントレースイ  
スキーリゾート



旧北炭夕張炭鉱天龍坑

旧北炭夕張炭鉱模擬坑道

夕張の石炭大露頭「夕張24尺層」

採炭救国坑夫の像



夕張市石炭博物館

夕張市役所

## 夕張トリビア

～ふる里 大夕張の碑～

シューパロ湖の湖底には1973(昭和48)年に閉山した三菱大夕張炭鉱で栄え、最大2万人が暮らしていた鹿島地区が眠っています。  
シューパロ湖の横を走る国道452号線沿いにある「鹿島眺望公園」には、2015(平成27)年に夕張シューパロダムが完成することを受けて旧夕張東高等学校や旧鹿島小中学校の閉校記念碑の他、道路開通記念碑・戦没者慰霊碑・馬頭観音が移設されました。この公園には今でも元住民らが訪れ、「ふる里 大夕張の碑」の母子像は季節によって服や帽子が着せ替えられるなど縁のある方によって見守られています。  
※冬期間は閉鎖されています



## 炭鉄港 構成文化財

旧北炭滝ノ上水力発電所

1925年に運転開始。北炭が所有する炭鉱の動力源として建設され、発電された電気は100km離れた志志内まで送られました。

旧北炭夕張炭鉱模擬坑道

天龍坑の補助坑道の一部を利用して1939年に見学用坑道として整備。地下で実物の炭層や採炭機械を見学できる国内でも珍しい施設です。

旧北炭清水沢水力発電所

滝ノ上水力発電所と同様、炭鉱の動力源として建設され1940年に運転開始しました。

採炭救国坑夫の像

1944年に制作されたコンクリート製の塑像(高さ3.63m)。炭都・夕張のシンボルとして市民に親しまれ、戦時美術品としても価値があります。

夕張の石炭大露頭「夕張24尺層」

1888年に、道庁技師・坂市太郎によって発見された。厚さ約7.3m(24尺)と大規模で貴重なものであるとともに、夕張の歴史の起点でもあります。

旧北炭夕張炭鉱天龍坑

1900年に開坑。入気・排気の坑口が対になって残っていること、赤レンガの化粧坑口が意匠的に美しいことが特徴です。

旧北炭鹿ノ谷倶楽部(夕張鹿鳴館)

1913年開設。北炭の賓客や会社幹部の宿泊・会合に用いられた福利施設で、1954年に昭和天皇が宿泊した際に、寝室・炊事場を大改造しました。